



令和4年度

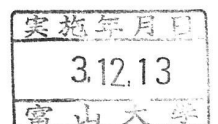
医学部看護学科

特別選抜

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. この問題冊子には、表紙を除いて問題用紙は3枚、解答用紙は3枚、下書用紙は3枚あります。試験開始の合図があってから確認してください。
なお、文字等の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等があった場合は、手を挙げて監督者に申し出てください。
3. 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を記入してください。
4. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に横書きで記入してください。解答用紙の所定の欄以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としません。
5. 解答用紙以外は、試験終了後、持ち帰ってください。



1 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

アイデンティティとは、「私は何々である」という自己確信であり、この自己確信には、自己意識の連続性、自分が自分であること、自分の性格・目標・使命などをはっきりと捉え、それらを自分で動かしているという実感が伴っていることである。これを受け本書の中核となる「看護のアイデンティティ」について、下記の通り記述している。

看護のアイデンティティとは—————

「私たち看護師は、その人の最適な健康状態をめざして、その人の主体的な 24 時間の生活の営みを、その人にふさわしく整える者である。具体的には呼吸・循環・食・排泄・移動・睡眠・清潔・更衣などの日常生活行動の 1 つひとつを、その人の病態や行われている治療その人の生活様式などをふまえて適切に支援し、その人の命を守り日常生活を維持することを担う者である」

この看護のアイデンティティは、別の言葉でいえば、「キュアとケアを統合した看護を実践する者である」となり、これこそが看護の不変の原理である。しかし、実際の看護師は、今、看護のアイデンティティ・クライシスに陥っているのではないだろうかと気がかりを抱えている。

—————中略—————

ブラウンレポート(ブラウンレポート, Nursing for the Future, 1948. カーネギー財団の資金援助による調査)の一部を紹介しよう。

〈彼女らはベッド・サイドでの病人の看護が好きであるし、やりたいとも思っているというのが、その結論である。しかし彼女らの問題とするのは、病人が世話を必要とするときに、世話をしてやるだけの余裕がないことだ。多くの看護師に会って筆者の感じたことは、彼女らは疲れてイライラしているということだった。患者が話し相手を求めているとき、誰か思いやりのある人を求めているとき、彼女らは、絶え間なく動く手足でしかないのだ〉(小林富美栄訳:ブラウンレポート これからの看護 p. 51, 日本看護協会出版会, 1966 より引用)

入院期間の短縮化に伴い、事の進行のスピードが速くなり、急性期病院の看護師があたふたと院内を急ぎ足で動いている姿が浮かんでくる。しかし、高度な医療器機を用い、高度な技術を持つ医療スタッフによって進められる医療が発達し、投与薬剤も複雑になり、治療に関連することに看護師が大半の時間を割き、目の回るような忙しい現在の臨床の場にあったとしても、看護実践の原型は不変である。すなわち看護のアイデンティティは不変である。

「私たち看護師は、その人の最適な健康状態をめざして、その人の主体的な 24 時間の生活の営みを、その人にふさわしく整える者」であり「キュアとケアを統合した看護実践を創り出す者」である。この看護のアイデンティティは、^{みじん}微塵も揺るがない。揺らいではいけないと考えている。

時間に追われることで、仕事のやりがいを感じられなくなっているのだろうか。ならば、時間がありさえすれば看護のアイデンティティを維持できるのだろうか。看護のアイデンティティ・クライシスを回避できるのだろうか。看護のやりがいのためには、ベッド・サイドでのコミュニケーション、

心理的側面からの援助を強調する報告もあるが、本当にそうだろうか。看護師は心理的側面からの支援を専門とする職業だろうか。

そうではない。看護師はまずは身体から人にかかわっていく。キュアとケアを統合した実践をしていく。それがやがて人の心に到達するのである。ここにこそ、専門家としての看護の存在理由があるはずだ。

出典：秋元典子著：看護のアイデンティティ，p 152-160，株式会社ライフサポート社，2021年より引用，一部改変

*キュア (Cure)：医師によって治療されるが，看護も共有する与薬や治療などの実施に伴う側面を意味している。

*ケア (Care)：身体世話，つまり，食事・排泄・入浴など，直接的に手を使って患者の身体的な世話をするをいい，慰めいたわる関係を築くことも含まれる。

- (1) 著者の考える看護のアイデンティティ，看護のアイデンティティ・クライシスとは何か，200字以内で述べなさい。
- (2) この文章を読み，専門家としての看護の存在理由は具体的にどのようなものであるか，あなたの考えを300字以内で述べなさい。

- ② 次の表は、日本人の1次活動・2次活動・3次活動の生活時間*の配分を示している。調査年、地域、性別、年齢区分の4つの分類について、1人1日当たりの活動の平均時間を示した。下記の設定に答えなさい。

調査年	地域	1次活動【分】				2次活動【分】				3次活動【分】			
		男		女		男		女		男		女	
		15～24歳	65～74歳	15～24歳	65～74歳	15～24歳	65～74歳	15～24歳	65～74歳	15～24歳	65～74歳	15～24歳	65～74歳
2016年度	全国	615	668	644	662	439	239	451	339	387	533	344	439
	富山県	609	676	639	644	463	248	506	355	368	516	295	441
2011年度	全国	613	676	643	669	427	224	430	328	400	539	367	443
	富山県	599	672	615	652	435	211	466	347	407	557	360	441
2006年度	全国	607	683	633	674	432	223	436	332	401	534	371	434
	富山県	608	663	633	668	424	230	418	345	407	547	389	426
2001年度	全国	608	688	635	681	409	222	423	319	422	530	381	440
	富山県	604	670	628	673	421	250	414	347	414	520	397	420
1996年度	全国	611	690	632	684	424	237	433	331	406	513	375	425
	富山県	601	677	627	670	428	259	431	378	411	504	381	392
1991年度	全国	600	684	626	681	448	248	462	328	392	509	352	431
	富山県	597	670	620	661	439	271	469	348	404	499	351	431

出典：総務省統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室，社会生活基本調査，政府統計の総合窓口（e-Stat）より引用，一部改変

（https://www.e-stat.go.jp/koumoku/toukei_outline#2-1-7）

*生活時間

1次活動：社会生活基本調査にいう睡眠，食事など生理的に必要な活動。

例 睡眠，身の回りの用事，食事。

2次活動：社会生活基本調査にいう仕事・家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動。

例 通勤・通学，仕事，学業，家事，介護・看護，育児，買い物。

3次活動：社会生活基本調査にいう1次活動，2次活動以外の各人が自由に使える時間における活動，一般に余暇活動と呼ばれる。

例 移動，テレビ・ラジオ・新聞・雑誌，休養・くつろぎ，学習・自己啓発・訓練，
趣味・娯楽，スポーツ，ボランティア活動・社会参加活動，交際・付き合い，
受診・療養，その他。

- (1) この表から、もっとも違いがあるといえる生活時間の配分と分類の組み合わせを20字以内で述べなさい。
- (2) (1)の違いが生じた理由を踏まえ、生活時間の使い方についてあなたの考えを300字以内で述べなさい。

科 目	小 論 文
-----	-------

受 験 番 号						

1 解 答 欄
(1)

				5					10					15					20
																			5
																			10
																		(200字)	
																		(20×10)	

採 点

下書用紙

注意： この下書用紙に記入した解答は、採点の対象としませんので持ち帰ってください。

1

解答欄

(2)

			5			10			15			20		
													5	
														10
														15
														15 (300字)

(20×15)

下書用紙

